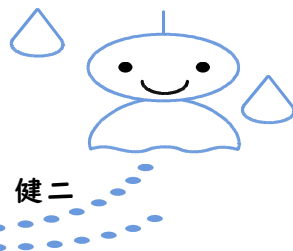


輝け！一小子 No.3

太陽のような学校を目指して 「こころ」を大切に
友だちののいやがることをしない、言わない

発行者 校長 井戸 健二



令和6年度 第一小学校目指す児童像

「自分で何とかしようとする児童」の育成 ～「自分の目標」「自分の壁」に向かって！～

早いもので1学期も後半に入ってきました。新しい学年・学級での生活も安定し、友だちとの交流も盛んになってきました。年度当初に掲げた自分の目標に向かって努力をしている児童が多く見られる中、その一方で、自分の目標を見失ったり苦戦したりしている児童も見受けられます。

冒頭に掲げた「自分で何とかしようとする児童」は今年度の第一小学校の学校経営方針に掲げた目指す児童像です。これは群馬県教育委員会が「第4期群馬県教育振興基本計画 教育ビジョン」（2024年4月～2029年3月）の中で示した、「これからの時代を生きていく私たちに必要なこと」として「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す」を受けたものです。

学校には様々な子どもたちが集い、集団としてのルールや約束事があります。その中で、社会性を身に付け、自立に向かって多くの経験を積む場でもあります。自分にとって都合のよい環境ばかりが初めから用意されているわけではなく、むしろ、集団の中で協力し、周囲と折り合いをつけながら多くが納得できる環境をつくりあげていくことが求められています。

よりよい自分、よりよい生活や環境を求める中で壁が立ちはだかるのもこの時期だと思えます。壁の高さは人によって違います。壁に向かう姿勢や状況も一人一人異なっています。ただ、その過程の中で人は成長していきます。すべてを大人が安易に取り除いてしまうと、子どもは成長の機会を失いますし、とても乗り越えられない高い壁であれば心が折れてしまいます。子どもたちが自分なりの目標に向かって努力し、そして途中で生ずる壁を自分で乗り越え、自分で何とかしようとする児童を育成できるよう、私たち職員はこれからも児童とのコミュニケーションを大切にしていきますが、保護者の皆様との共通理解もとても大切なことと考えています。心配事などありましたらお気軽にご相談ください。



交通安全教室 全学年で実施

5月24日、館林警察署、交通安全協会、交通指導員、市役所安全安心課の皆様にご来校いただき、全校児童対象の交通安全教室を行いました。

4, 5, 6年生は校庭で警察官の方から交通安全に係るお話をいただいた後、市の安全安心課と交通指導員による衝

突実験と内輪差実験を見ました。衝突実験は、時速30kmと40kmで走る車が歩行者に衝突するというものでした。車に同乗した本校職員からは、衝突の瞬間について「大変怖くて言葉にできない」という話がありました。内輪差の実験は、トラックが信号機のある交差点を左折するという状況を設定して行われました。交差点等で待つ際にも、車道から距離を保つ必要性が強調されました。



【衝突実験の様子】



【内輪差実験の様子】

3年生は校庭の西側にある交通学習公園を使って自転車の乗り方について学習しました。この施設は昭和43年につくられたものです。いろいろな交差点や横断歩道、踏切などが設けられています。一人一人にとっても丁寧に助言していただきました。



【3年生自転車教室①】



【3年生自転車教室②】

1年生と2年生は体育館で交通安全についての紙芝居を見たり、話を聞いたりして、交通ルールや約束を学びました。令和5年度に館林市内の小中学生が関係した交通事故は33件も発生しています。道路を横断するときは「止まる・見る・待つ」を徹底すると共に「飛び出しは絶対にしない」ことを心に留め、今回学んだことを生かして、交通事故に決して遭わないよう今後も気をつけてほしいと思います。



【紙芝居を使っでの講話】



【交通ルールの説明】

第一小学校の情報は HP で紹介しています。

館林一小



または
こちらから



